

平成30年6月15日

総務文教委員会

阿久根市議会

- 1 会 議 名 総務文教委員会
- 2 日 時 平成30年6月15日(金) 11時00分開会
11時56分閉会
- 3 場 所 第1委員会室
- 4 出席委員 大田重男委員長、濱田洋一副委員長、渡辺久治委員、
西田数市委員、竹原信一委員、竹原恵美委員、
濱之上大成委員、木下孝行委員
- 5 事務局職員 議事係長 牟田 昇
- 6 説 明 員
・企画調整課
課 長 山下 友治 君 課長補佐 寺地 英兼 君
- 7 会議に付した事件
・議案第30号 放射性廃棄物の持ち込み拒否に関する条例の制定について
・陳情第2号 土地の購入に関する陳情書
・陳情第3号 教職員定数改善と義務教育費国庫負担制度2分の1復元、複式学級解消をはかるための、2019年度政府予算に係る意見書採択の要請について
・所管事務調査について
- 8 議事の経過概要 別紙のとおり

審査の経過概要

大田重男委員長

ただいまから、総務文教委員会を開会いたします。

本日の審査日程につきましては、配布した日程表のとおり進めていきますので、よろしく
お願いいたします

○議案第30号 放射性廃棄物の持ち込み拒否に関する条例の制定について

大田重男委員長

まず初めに、継続審査となっております議案第30号 放射性廃棄物の持ち込み拒否に関する条例の制定についてを議題といたします。

先の委員会では、慎重に審議していくべきとの意見があり、本定例会で改めて審査することとしたところです。

ここで、先の委員会でも、執行部に出席をいただき、意見を伺いたいとの意見がありましたので、ここで所管課であります企画調整課に出席を求めたいと思いますが、これに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

御異議なしと認め、所管課に出席を求めるといたします。

それでは、企画調整課の出席をお願いいたします。

(企画調整課入室)

大田重男委員長

企画調整課に出席いただきました。

ここで、意見を伺いたいと思いますが、委員から質疑があればお願いしたいと思います。

〔発言する者あり〕

休憩に入ります。

(休憩 11:02～11:02)

大田重男委員長

休憩前に引き続き委員会を開催します。

〔発言する者あり〕

休憩に入ります。

(休憩 11:03～11:04)

大田重男委員長

休憩前に引き続き委員会を開催します。

濱之上大成委員

私はですね、個人的には国の政策が一番大事なことで、条例をつくること自体にはちょっと反対するものではないんですけど、時期尚早というふうに思ってるんですけど。現実にごみがある鹿児島県がですね、例えば熊本には原発はありませんが、原発のない熊本県にごみを捨てなさいという、もし言われたときはあなたはどう思いますか、課長。自分のところに。単純な質問や、せっかくだから。

山下企画調整課長

個人的な意見ということではなくて、こういった放射性廃棄物の処理については、国において責任を持ってその処理の取り扱いを決定すべき問題であると、このように考えております。

濱之上大成委員

私も同じなんですがね、国がしっかり決定していただきたい。そういう状況がまだ踏まれない状況の中で、一自治体が決めることも大事ではあるかもしれませんが、現実には鹿児島県内に原発があるんだという捉え方をすると、まず県民はそれを理解はしてないものの、認めた経緯もあるわけですから、原発があること自体を。そうした時期に、自分たちのところにはいらないと、こういう発想はいかがなものかと思いますが、もう1度聞きますけど、どう思いますか。

山下企画調整課長

先ほど、これは国の政策の一つとして決定されるべきものだと思っておりますけれども、少なくとも阿久根市においては、この間、議会での議論の中で市長は一貫して当市には合い入れないものだというので、受け入れをする意思はないということは明らかにしているところでございます。

大田重男委員長

ほかにありませんか。

濱田洋一委員

今、課長が答弁していただいたことと重複するかも知れませんが、この廃棄物の持ち込み等の拒否について、市としてこれまで何か協議されたことってありますか。

山下企画調整課長

昨年7月にこのマップが公表されたあと、担当課であります企画調整課と市長、副市長とこのことについて協議をいたしまして、市としては受け入れる意思がないということを確認しているところでございます。

大田重男委員長

ほかになければ、以上で所管課への質疑を終結いたします。

(企画調整課退室)

[発言する者あり]

大田重男委員長

それでは、委員の皆さんから議案第30号についての御意見を伺います。

渡辺久治委員

一刻も早く採択してもらいたいです。

木下孝行委員

私のほうは、基本的にこれを完全に否定するものではないことを前提に話をしますけれども、今現在、条例を制定した都市、いわゆるその多くが首長が誘致といいますか、そういった活動に、そういった方向に向いたところが議会でそういう条例を制定しているということが多く見受けられるということで、今、企画調整課長の話にもありましたように、市長とすれば一貫してこれを受け入れる気持ちがないことはずっと示しているということを考えたときには、今すぐこれを制定する必要はないものと思いますし、特に国のほうの動向をまず注視しながら判断はしていいのかなというふうに思います。

渡辺久治委員

市長も受け入れないと言ってるわけですから、いかにそれを後押しする感じで条例を制定するのが筋だと思います。

竹原恵美委員

私の認識では、今までに制定されたところでは、執行部、市長からの提案のところもあります。市民からの陳情を受けて制定したところもあります。受け入れることを推進した、または国が何かポイントしたからということ、少し早いうちの決定のものはありますけれども、近々のものは完全にマップ後のもの多くて、マップ後にうちは受け入れないと、市民のことを考えて、地域の産業のことを考えて受け入れないという表明をしたところが多いやに私は理解しておりますし、私たちは阿久根市のことを考えてこの拒否の表明を早くすることが大切である。市長とも同じ意見であることを明らかにすることで、早く決定してよいものと思っております。

竹原信一委員

もしこの条例を制定して、制定したけれどもこれに反する判断を市長がしたという場合、する可能性もあるわけですが、それに対してそのブレーキをかけ得る力になり得るのかなというふうに思うんですね。条例を制定したところで乗り越えてしまうわけでしょう、しばしば。例えば、最初言っていましたよ、福島のあるときも完全な放射性を持っているごみですよ。それも廃棄物ですよ、放射性廃棄物、間違いなく。その受け入れを表明しとるわけですよ、阿久根市は、市議会も、やったでしょう。そういう状況であったのに一貫して受け入れ拒否を、受け入れないことにしているという考え方をしているというのを、言葉のすり替えで何でも乗り越えてしまうような状況が実際あるから、あんまり意味ないのかなというふうには私は思うんですよ。どっちにしろ守らないんだから。

[発言する者あり]

大田重男委員長

ほかに。

濱田洋一委員

議案第30号につきましては、提出者の目的等に私も賛同するものでありますけれども、今現在、国からのマップということで出されておりますけれども、これはやはり国が前面に立った中で国民的な議論ということで、今すぐ条例の制定ということにつきましてはどうかなというふうに思いますので、私としては十分な理解をしますけれども条例の制定までは今の段階では至らないという方向がよいのではというふうに思います。

大田重男委員長

ほかにありませんか。

[「なし」と呼ぶ者あり]

それでは意見も出たようでありますので、表決に入りたいと思います。

これより、討議に入ります。

討議ありませんか。

[「なし」と呼ぶ者あり]

討議なしと認め、これより討論に入ります。

討論はありませんか。

渡辺久治委員

条例制定に賛成の立場で討論します。

市長も受け入れ拒否を表明しているし、議会も条例をつくることを表明したら、自治体としての姿勢をはっきりと国に示すことになるわけですよ。これはやっぱり、今から自治体はちゃんとした自分の意見を持たないかんとおもいます。そうせんと何か国のあれに振り回されていたらいかんとおもいますので、ぜひこれは制定してもらいたいと思います。以上です。

大田重男委員長

ほかに討論ありませんか。

[「なし」と呼ぶ者あり]

なければ以上で討論を終結いたします。

それでは、採決いたします。

ただいま議題となっている議案第30号について、可決すべきものと決することに賛成の議員の挙手を求めます。

(賛成者挙手)

賛成多数と認めます。

よって本案は可決すべきものと決しました。

○陳情第2号 土地の購入に関する陳情書

大田重男委員長

次に、陳情第2号を議題といたします。

まず、提出者を呼ぶことを含め、審査の方法について、委員の皆様から御意見を申し上げます。

濱田洋一委員

参考人は呼ぶ必要はないと思います。

大田重男委員長

それでは、提出者を呼ばないこととして審査をしていくことで御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

異議なしと認め、そのように決しました。

それでは、陳情第2号について皆様からの意見を申し上げます。

木下孝行委員

これでこの陳情は3回目ですかね。今まで十分審議はしてきております。これは続けて審査しており、内容はまったく一緒という内容です。

大田重男委員長

ほかにありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

なければ、これより表決に入ります。

それでは、陳情第2号について、討議に入ります。

討議ありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

なければ次に討論に入ります。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

なければ討論を終結いたします。

それでは、陳情第2号について、採決いたします。

不採択とすべき意見がありますが、本件の採択についてお諮りいたします。

本件は、採択すべきものと決することに賛成の委員の挙手を求めます。

(挙手なし)

挙手ゼロであります。

よって、本件は不採択とすべきものと決しました。

○陳情第3号 教職員定数改善と義務教育費国庫負担制度2分の1復元、複式学級解消をはかるための、2019年度政府予算に係る意見書採択の要請について

大田重男委員長

次に、陳情第3号を議題とし、審査に入ります。

まず、提出者を呼ぶことを含め、審査の方法について、委員の皆様から御意見を申し上げます。

木下孝行委員

この陳情3号については、ほぼ毎年同じような内容で陳情が出されております案件であります。内容は十分理解をしているというふうに私は思いますので、参考人の出席は私はいら

ないものと思います。

大田重男委員長

提出者は呼ばないこととして審査していくことで御異議ありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

御異議なしと認め、そのように決しました。

それでは、陳情第3号について皆さんから御意見をお願いします。

木下孝行委員

私とすれば、この陳情内容は十分理解できるものと思っておりますので、趣旨採択をお願いしたいと思います。

大田重男委員長

ほかに意見ありませんか。

木下孝行委員

付け加えるのであれば、国のほうも教職員の定数の改善に向けた施策として取り組んでいるということもありますので、趣旨採択ということで私はよろしいのではないかと思います。

竹原恵美委員

調べてきたんですけれども、基本的に教職員というのは県が動かしているもので、そこに国が3分の1を負担するというのが確かに三位一体のときにあるんですけれども、当時の考えは地方6団体の案として出てきたもので、それまでが国庫負担全額だったものを廃止して移譲対象補助金というふうにするということがありました。この決まり自体にも疑問はありませんし、今、先ほども言われましたけれども、環境改善、長時間労働改善、定数の改善、これも図られていっております。そして3番目にもありますが、統廃合によらないと言われますけれども、これ現実的には外せないし、ICTでかなり改善をするという方向にありますので、対策がもう私はとられているものだと思います。このような提案は学校のことを大事に思っていらっしゃる意図はわかりますが、内容を見ても改善がしっかり図られていく方向にある中で、バックアップというよりは過去の提案内容に私は見えますので、反対というか、否決をしても構わない内容かと思えます。

西田数市委員

陳情者の方は現役の教員でありまして、組合の北薩地区の代表でありますので、組合から出た問題、もまれてることなんですよね。だから、私は反対でもいいし、趣旨採択でもいいと、ちょっとはつきりとまだ決めかねないところなんですけど、趣旨でお願いします。

〔発言する者あり〕

大田重男委員長

今、採決の関係では趣旨採択とするか、採択とするか、不採択とするかになりますから。今のところ意見を述べてください。

渡辺久治委員

この全体の流れは気持ちではよくわかるんですけど、この3番目、学校統廃合によらない複式学級の解消に向けてと。ちょっと物理的に難しいのではないかというか、現実にそぐわないという気がしますので、私はこれは採択しなくてもいいと思います。

濱之上大成委員

結論から言うと趣旨採択という捉え方を私もしているんです。というのは、教職員の長時間労働改善、これは保護者もほとんど勘違いされてるんですけど、例えば中学校の部活なんかはほとんどボランティアです。報酬もないわけですね。そういう状況からするとこれは大事なことであろうと。それと3番目の学校統廃合によらない複式学級、これは統廃合していかないかん部分もあるので、ここは非常に迷うところありますので。私としては2番目の2分の1に復元することは大事なことだろうなという意味でも趣旨採択としたいと。

大田重男委員長

ほかにありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕
なければ、これより表決に入ります。
それでは、陳情第3号について、討議に入ります。
討議ありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕
討議がなければ、次に討論に入ります。
討論ありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕
なければ討論を終結いたします。
それでは採決いたします。
今、内容は趣旨採択と不採択という意見がありましたから、まずは趣旨採択を諮りたいと思います。

陳情第3号について、趣旨採択とすることについて、賛成の委員の挙手を求めます。
(賛成者挙手)

挙手多数と認め、趣旨採択と決しました。
ただいま陳情3号は、陳情趣旨にあります意見書の提出について御協議いただきます。
委員の皆さんからの意見がありましたらお願いします。
休憩に入ります。

(休憩 11:25～11:27)

大田重男委員長

休憩前に引き続き委員会を再開いたします。
休憩中の皆さんの御意見では意見書の提出までは必要ないとの意見が多いようですが、意見書の提出まではしないとのことで御異議ありませんか。
〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕
御異議なしと認め、そのように決しました。

○所管事務調査について

大田重男委員長

次に、本委員会の所管事務調査についてを議題とします。
先の委員会では、再生可能エネルギーに関して福岡県みやま市、そして八女市を1日の日程で調査することに決定しましたので、今回、調査に行きたいと思っています。
なお、その調査後に、災害支援・避難計画の事項で熊本県多良木町及び学校規模等の調査については行うことにいたします。
この際、協議のため休憩いたします。

(休憩 11:28～11:36)

大田重男委員長

休憩前に引き続き委員会を再開いたします。
それでは、所管調査については福岡県みやま市、八女市の両市を調査することとし、日程については委員長に一任願いたいと思いますが、これに御異議ありませんか。
〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕
御異議なしと認め、そのように決しました。
日程が決まりましたら、お知らせいたしますので、よろしく申し上げます。
以上で本日予定しておりました日程はすべて終了しました。

ただいま議決されました案件に対する委員会審査報告書の作成及び委員長報告及び議会だよりの総務文教委員会に関する原稿につきましては、委員長に御一任願いたいと思いますが、これに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

御異議なしと認めます。

よって、そのように決しました。

以上で、総務文教委員会を散会いたします。

(散 会 11時37分)

総務文教委員会 6月15日(金)

開 会 11時40分

審査の経過概要

○所管事務調査について

大田重男委員長

先ほど散会いたしましたので、あらためて総務文教委員会を開会します。

閉会中に意見がありました台湾の調査ですが、皆さんの意見を求めたいと思います。

〔発言する者あり〕

今、台湾の話をしているので。

〔発言する者あり〕

台湾のことについては、文化などよく知らないもので、こっちは。総務文教委員会の所管調査としてどういったことを調査するのか。

〔発言する者あり〕

渡辺久治委員

鉄は熱いうちに打てという言葉があるわけよな。善化区と協定を結んで今が機は熟しているわけ。いろんな期待があるかもしれんど。この中で、いろんな枠があるから、それはものすごくそぐわんかかもしれんけれども、チャンスの神様は前髪をつかむというのがあるわけよ。これは我々が勉強するためには我がお金で行くのは大変やからな。実際に公費で行けるといふこんなありがたいことはないです。私はぜひ行きたい。台湾のエネルギー政策とか、外交政策は日本よりずっと進んでるわけで、そういうのをひしひしと感じる、向こうの議員になったら。そういうのをぜひ体験したいから、そういうのをお金を払ってでも行きたいけれども、うんどまお金はないもん、あんまり。行けるのがあったらぜひ行きたい。だからいろんな枠を外してでも、組み替えてでも行きたいと。もちろん市民の反発もあるかも知れんけど、そういうのを言ったら何もできんど。だから私は行きたいです。以上です。

〔発言する者多数あり〕

濱之上大成委員

私は今、渡辺委員の言葉を聞いて非常に感動をいたしましたんですがね、私としてはそういう思いもある方もいるんだなという捉え方です。ただ、状況としましては私としては議員研修的な状況から考えたほうがいいんじゃないかなとも思っておりますが、そのように皆さんが賛同を得られればそれに反論をする考えはありません。以上です。

竹原信一委員

とにかく台湾に行きたいから、行きたいんだったら総務文教の目的、本来の目的ということから理由付けができてないとだめだと思いますよ。そしてテーマをまずつくって、そして台湾に行くことが望ましいという結論を出した後にということでない、これはもう総務文教委員会の仕事です、行くことを目的に、お金がないから行きましようみたいな、そういうことをやっては、行っちゃいけないと思いますよ、大体。順番をちゃんと秩序立てて言葉も、行かないと、体裁というか、だめですよ。

〔発言する者あり〕

濱田洋一委員

先ほど渡辺委員がおっしゃられた鉄は熱いうちに打てと、（聴取不能）ということは非常に大事なことだと思えます。ただ、せっかく公費という部分で行くということであれば、もっと中身をですね、先ほどエネルギー政策とかいろいろ言われましたけれども、ただ一点に絞り込むのも大事かと思えますけれども、いろんな所管調査事項にありますそういうところをもっと深く聞いてきたいというような考えもありますので、それからしたら、例えば今期の台湾ということへの総務文教委員会で行くのはどうかと、若干疑義が生じるかなと。改めて来年、もしくは再来年でもじっくり内容を煮詰めた中でこれとこれを調査していきたいと、そういうことでやったほうがよりよいものを得られるのかなというふうな感じは受けません。以上です。

西田数市委員

私は今行くべきじゃないと思っています。簡単に言いますが、先ほど濱田委員が言いましたように、もっと揉んで揉んで、それで来年、再来年でもいいですから、もっと深く揉んでから所管調査に行くべきと思っています。今は行くべきじゃないと思っています。

木下孝行委員

今、まだ意見を言っていない委員の方もおられますけれども、私がこの前全協で提案させていただいたということですね、私の考えからすれば所管ということで、先ほど申しましたように協定とか、今後取り組んでいく教育交流、そういうのを含めれば総務文教も所管に当たると。またそれ以外ですね、議員として産業厚生委員会の中では行く方向で話が進んでいるというふうに聞いておりますけれども、所管が違えど行くことによってまずそこを知らないことには、今後そのことの話はなかなか難しいのではないかなというふうに思います。まずはそこを知ること、見ること、そしてその人たちと話をすることをまず先にやってこそその先が私はあるものだと思っています。だから、こういった海外の交流都市との毎年の視察というのはなかなか予算的にも難しいというのがあるとするならば、私は最初に行くべきだろうと思って皆さんに提案したものであってですね、これを強要する気はまったく私としてはありませんので、委員会の私もメンバーですけども、そこは十分考慮していただいで決めていただきたいと思えます。ただ、ひと言、言わせてもらえれば、まずそこを知ることから始まるんじゃないかなというふうに思っております。以上です。

竹原恵美委員

私たち議員にはその地域、阿久根市を代表としてあいさつするような顔の役割はもともと持っておりませんし、台湾の何が私たちの事業に対して魅力があるっていうテーマがもともとないんです、今、現状。そして私たちはあと1年も残りがないので、見に行つて結果を出すというストーリーが1年未満にはどうしても出ないものですから、結果を見いだせないものに私たちに行く価値は市民は認められないと思えます。そういう視点も持っていたいで、私は反対です。行く必要はないです。

大田重男委員長

ちょっと休憩に入ります。

(休憩 11:48～11:51)

大田重男委員長

休憩前に引き続き委員会を再開いたします。

先ほど皆さんの意見を伺いましたですね、行くべき、行かなくてもいいと、そういう意見が出ています。ここで採決するわけにはいけません、もう少し時間を持ってですね、最終本会議、22日の本会議の終わったあと、総務文教委員会を開きたいと思えます。時間をください。

[発言する者あり]

西田数市委員

今から先の現状を見て、追加をして、

[発言する者あり]

特別支援の支援に関する学校関係の視察をしたいと思います。

[発言する者あり]

今の現状は児童・生徒は減る一方だけど、支援が必要な子供たちはふえてくるという状況になっているものですから、スピーディーに早め早めの対策をしたいものから、そういう気持ちで所管調査を入れてください。

[発言する者あり]

大田重男委員長

特別支援学級の施設がある学校を見たいというわけ。

[発言する者あり]

西田数市委員

支援学校に関する県外、県内、どこでもいいですので、力を入れている町の視察をしたいと思います。

[発言する者あり]

テーマに入れてください。よろしくお願いします。

大田重男委員長

ただいま西田委員から特別支援学級の調査をしたいということですが、それに異議はありますか。

[「異議なし」と呼ぶ者あり]

異議なしと認めます。そのように決しました。

濱之上大成委員

これは大事なことなんですけどね、現実に脇小の支援の部分の支援教室、情緒の部分の支援教室を見てどうだという捉え方を感じた上でですね、他の学校に市外、県外に行くということですか。今、現状はわかってらっしゃるんですか。

西田数市委員

わかっています。

木下孝行委員

今、西田委員が市内の現状をわかっているということで、じゃあほかの委員がわかっているかと言えばわかってない部分もあるから、そこも含めて調査をすると、そういう形でいいんじゃないですか。

[発言する者あり]

竹原恵美委員

先進地という言われ方をしましたけれども、ICTを入れること、タブレットなんかで授業を進めることで集中力が上がるとか、そういう授業を進めてるところもあります。きのうちょっと紹介しました合理的配慮ということが随分進んで、部屋づくりから手を入れられている。そういうのを阿久根も取り入れるべきだろうととても強く思っているところなので、そういうところも含めて先進地として研修をしていきたいと思います。御提案でした。

大田重男委員長

今の竹原恵美委員の意見も踏まえて西田数市委員の特別支援学級を調査したいと思います。それでは、以上で散会いたします。

(散 会 11時56分)

総務文教委員会委員長 大 田 重 男